

「アジア文化交流」特集号の刊行によせて

本研究所は昨年度『紀要』の刊行につき、通常号を年2回と特集号を年1回刊行することを決め、手始めに、その少し前にアジア経済危機が言われていたのに因んで、「ユーロ1年とアジア経済」をテーマとする特集号を編集・刊行した。今年度は「アジア文化交流」をテーマとして特集号を編集することとし、所員のほかに学外の5名の方々に執筆を依頼して本特集号は成った。

文化交流というとき、「交流」に焦点を当てる方法が普通であるが、今回の編集方針はそれに限定せず、各執筆者の得意とする分野について、交流面を考慮しながら「文化」について執筆頂くこととした。その結果、北東から南西方向にかけて、ロシア、韓国、中国、インドネシア、タイ、バングラデシュ、インドの各国・地域を対象とする論考を得、加えてアジア各地域からの留学生受け入れを巡る諸問題を地域横断的に論ずる論考をも収録し得て、バラエティーに富んだ論集とすることができた。これはひとえに各執筆者のご尽力によるものであり、運営委員会として心より感謝申し上げます。

学外からの執筆者のうち3名の方は、東京で毎月開催されている「北東・東南アジア研究会」の会員としても活躍されている方々であり、期せずしてこの研究会と本研究所との交流がこのような形で実現したことにもなる。本研究所の今後のあり方を考えるとき、この種の研究交流が増えることは好ましく、積極的に内外の研究所や研究会と活動を共にする企画を立てることも良いと思われる。

今回の特集について、読者諸賢から忌憚のないご意見を賜りたく、また今後の本研究所の活動についても、同様に自由にご意見をお寄せ頂けるならば幸いです。

2001年1月10日

所長 三好 正弘